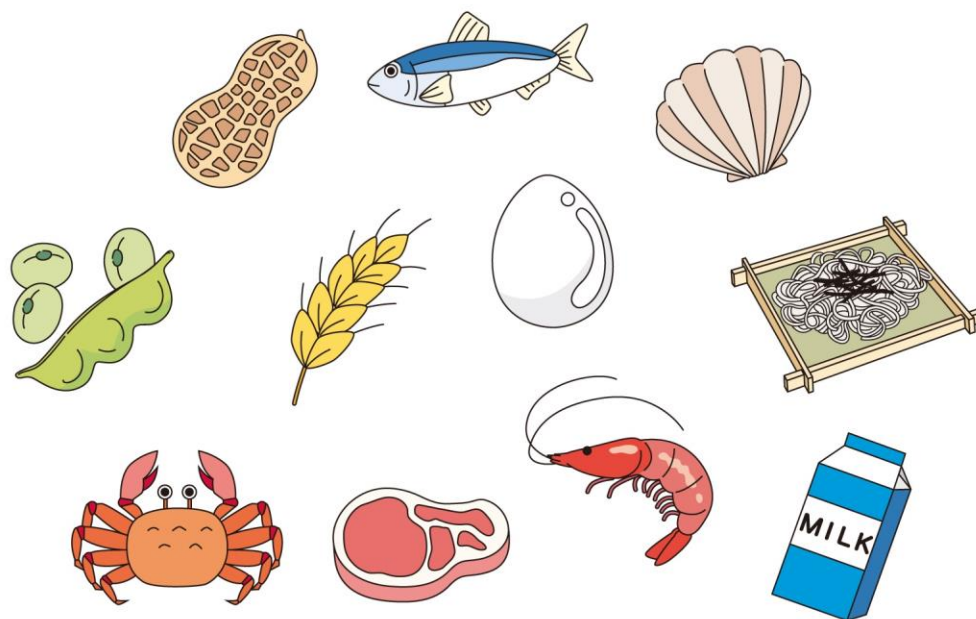


食 物 アレルギーによって起こる

症 状 と 治 療 について



食物アレルギーとは？ ①

- 食物によって引き起こされる抗原特異的な免疫学的機序を介して生体にとって不利益な症状が惹起される現象。

- 症状の誘発に食物が関与する。
-

- 抗原特異的である。

例えば、鶏卵アレルギーの人は牛乳では症状を起こしません。

- 免疫が関係する。

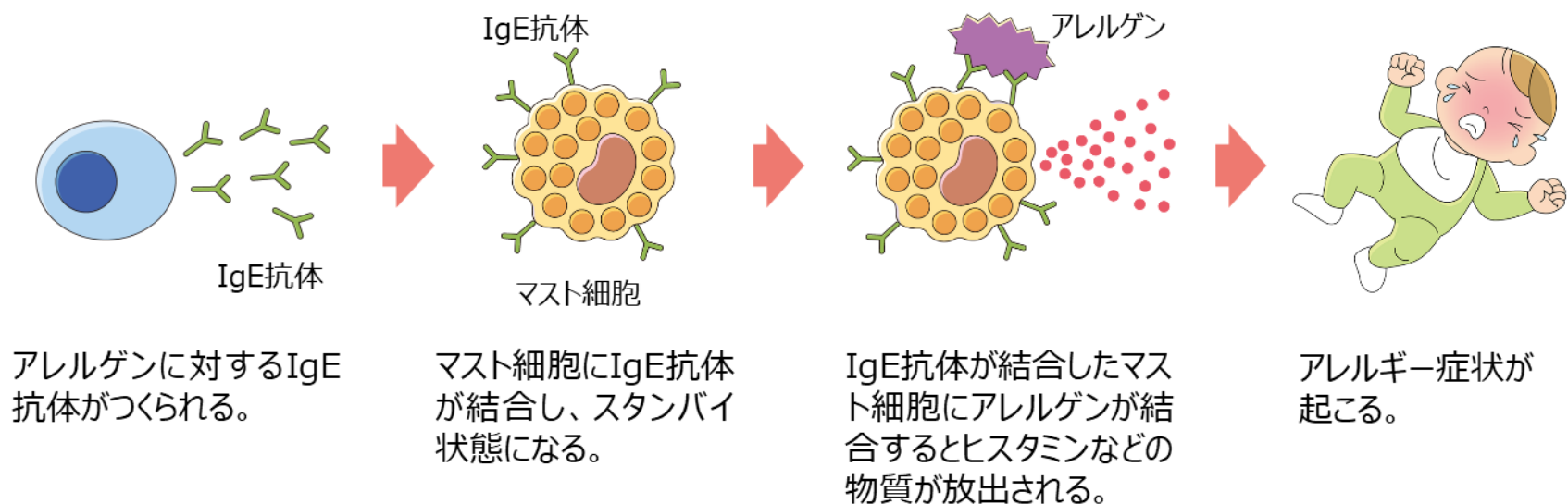
マスト細胞や好塩基球という免疫細胞、IgE抗体が主に関与しています（I型アレルギー反応の場合）。フグやキノコの毒は免疫が関与していないのでアレルギーとはいいません。

食物アレルギーとは？ ②

●免疫が関係する。

マスト細胞や好塩基球という免疫細胞、IgE抗体が主に関与しています（I型アレルギー反応の場合）。

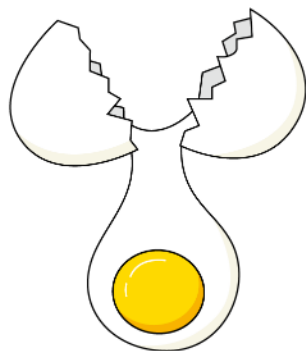
I型アレルギー発症のメカニズム



食物アレルギーとは？ ③

●免疫が関係する。

マスト細胞や好塩基球という免疫細胞、IgE抗体が主に関与しています（I型アレルギー反応の場合）。フグやキノコの毒は免疫が関与していないのでアレルギーとはいいません。

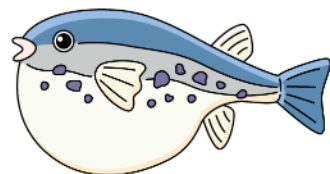


鶏卵



鶏卵の成分に対して
免疫反応が起こる患者さんに
症状が引き起こされる。

アレルギー



フグ



キノコ



誤って毒を食べたすべての人に
直接症状が引き起こされる
（免疫は関与しない）。

アレルギー
ではない

食物アレルギーと診断するには？ ①

- 特定の食物により症状が誘発される。
- 症状の誘発が、特異的IgE抗体などの免疫学的機序を介する可能性がある。

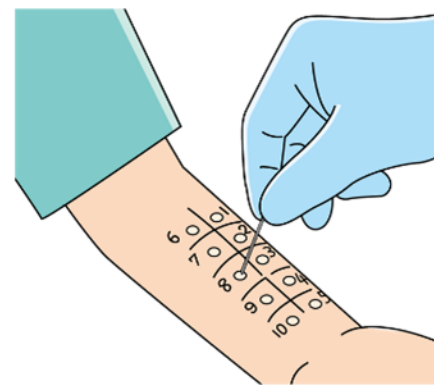
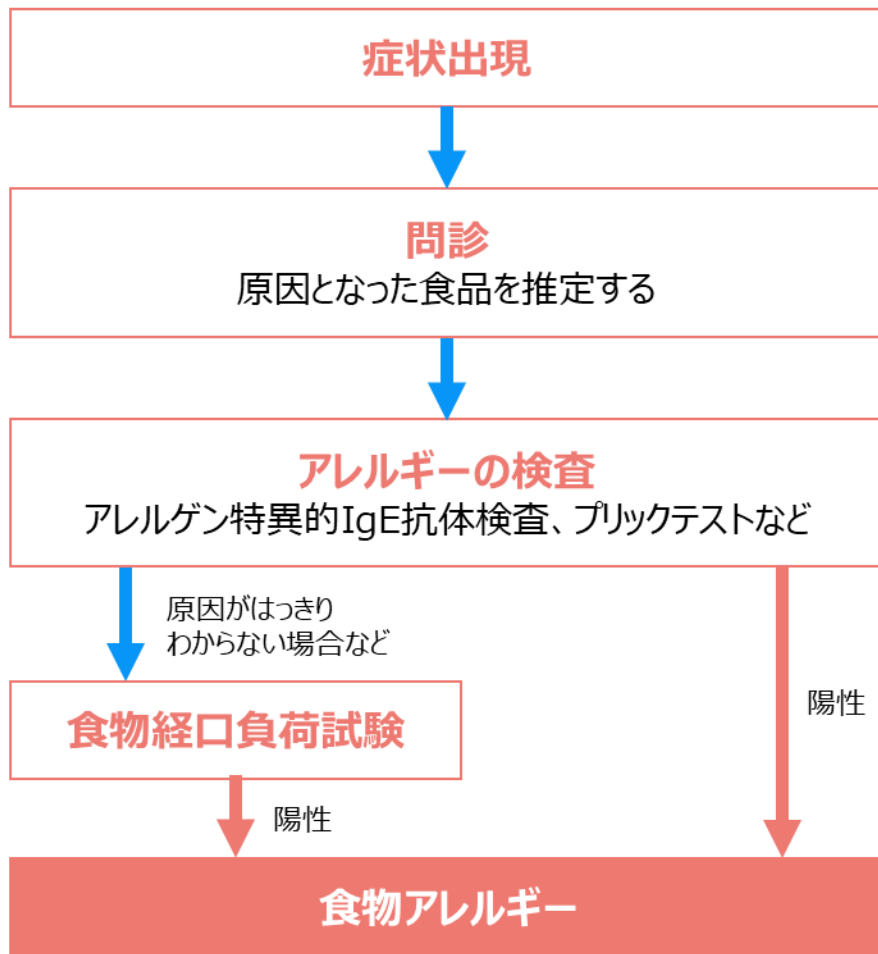
- 特定の食物により症状が誘発される。
問診が重要です。

- 症状に免疫が関わっていることが証明できる。
アレルギー特異的IgE抗体検査、プリックテストなどがあります。

- 問診などで原因となる食品が同定できない場合などは食物経口負荷試験で実際に症状が現れるかを検証する。

食物アレルギーと診断するには？ ②

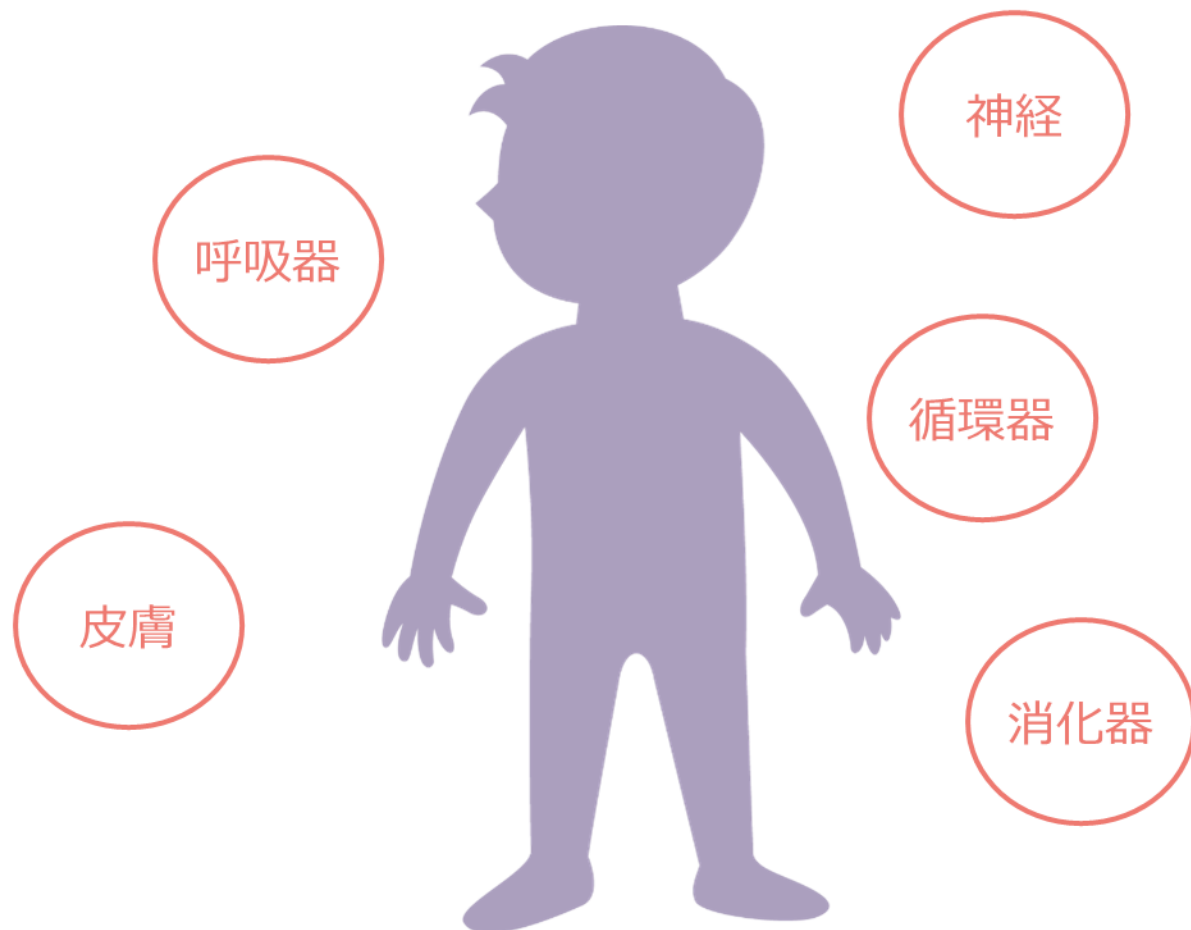
● 食物アレルギーの診断チャート



プリックテスト





食物アレルギーによって起こる症状 ①

- さまざまな臓器に症状が生じます。
- 症状は軽症・中等症・重症の3段階で評価します。



食物アレルギーによって起こる症状 ②

● 食物アレルギーの重症度

重症度	皮膚 	消化器 	呼吸器 	全身 
軽症 右記の1つでもあてはまる	<ul style="list-style-type: none"> ● 部分的な赤み、じんましん ● 軽いかゆみ ● くちびる・まぶたの腫れ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 口やのどのかゆみ・違和感 ● 弱い腹痛 ● 吐き気 ● 嘔吐・下痢（1回） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 鼻水、くしゃみ 	
中等症 右記の1つでもあてはまる	<ul style="list-style-type: none"> ● 全身性の赤み、じんましん ● 強いかゆみ ● 顔全体の腫れ 	<ul style="list-style-type: none"> ● のどの痛み ● 強い腹痛 ● 嘔吐・下痢（2回） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 咳を繰り返す 	<ul style="list-style-type: none"> ● 顔色が悪い
重症 右記の1つでもあてはまる		<ul style="list-style-type: none"> ● 持続する強い（がまんできない）腹痛 ● 繰り返し吐き続ける 	<ul style="list-style-type: none"> ● のどや胸が締め付けられる ● 声がかすれる ● 犬が吠えるような咳 ● 持続する強い咳き込み ● ゼーゼーする呼吸 ● 息がしにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ● 唇や爪が青白い ● 脈が触れにくい・不規則 ● 意識がもうろうとしている ● ぐったりしている ● 尿や便を漏らす

アナフィラキシーとは？

- アレルゲンの侵入などにより、複数の臓器に全身性にアレルギー症状が惹起され、生命に危機を与え得る過敏反応。
- 血圧低下や意識障害を伴うアナフィラキシー = アナフィラキシーショック

- 複数の臓器に症状が生じる。
皮膚症状 + 呼吸器症状や循環器症状などが生じます。

- 急速（数分～数時間以内）に症状が生じる。

- 生命に危機を与え得る状態。

アナフィラキシーの症状

● アナフィラキシーの診断基準

1

皮膚症状（全身の発疹、掻痒または紅潮）、または粘膜症状（口唇・舌・口蓋垂の腫脹など）のいずれかが存在し、急速に（数分～数時間以内）発現する症状で、かつ右記 a、b の少なくとも1つを伴う



皮膚・粘膜症状

さらに、少なくとも右の1つを伴う



a .呼吸器症状



b .循環器症状

2

一般的にアレルギーとなり得るものへの曝露の後、急速に（数分～数時間以内）発現する以下の症状のうち、2つ以上を伴う



a .皮膚・粘膜症状



b .呼吸器症状



c .循環器症状



d .持続する消化器症状

3

当該患者におけるアレルギーへの曝露後の急速な（数分～数時間以内）血圧低下



血圧低下

収縮期血圧低下の定義：

平常時血圧の70%未満または下記

生後1か月～11か月 <70mmHg
1～10歳 <70+ (2×年齢) mmHg
11歳～成人 <90mmHg

アレルギー症状の治療

- 症状が軽いとき（軽症～中等症）：症状に合わせた治療

皮膚症状



- ・抗ヒスタミン薬の内服

呼吸器症状



- ・気管支拡張薬の吸入
- ・（医療機関では）必要により酸素吸入

消化器症状



- ・（医療機関では）経口摂取が困難な場合は補液

- 症状が重症のときや中等症でも症状の進行が急激なとき、アナフィラキシーの既往があるとき

家庭ではアドレナリン自己注射器による自己注射、医療機関ではアドレナリンの筋肉注射やステロイド薬の投与を行うこともあります。

アドレナリン自己注射薬を使用すべき症状

消化器 の症状



繰り返し吐き続ける



持続する強い（がまんできない）腹痛

呼吸器 の症状



のどや胸が
締め付けられる



犬が吠える
ような咳



ゼーゼー
する呼吸



声がかすれる



持続する
強い咳込み



息がしにくい

全身 の症状



唇や爪が青白い



尿や便を漏らす



ぐったりしている

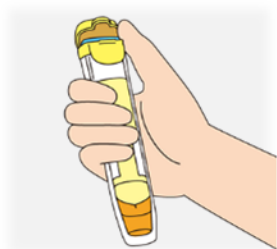


脈が触れにくい・
不規則

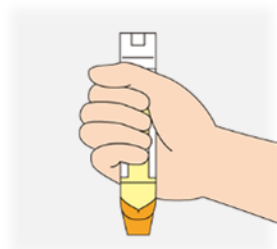


意識がもうろうと
している

アドレナリン自己注射薬の使用法



ケースから取り出す。



グーで握る。
オレンジの側から針が出る。



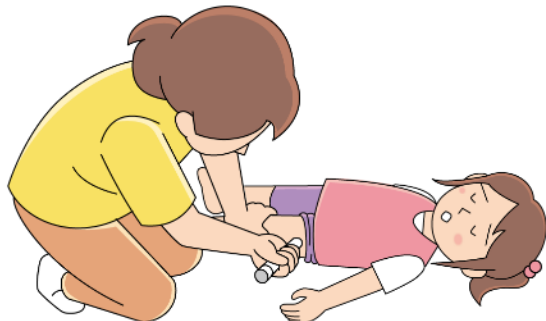
安全キャップをはずす。



ふとももの中心から少し外側に
当てて強く押し、数秒間保持する。

使用法を忘れてしまったら自己注射薬本体のラベルを確認しましょう。

- 介助者なしでアドレナリン自己注射薬を使用する場合は、子どもが動かないようにしっかりと固定する必要があります。

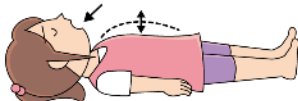

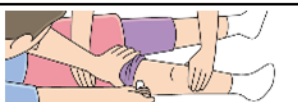












膝関節をしっかりと
押さえて、接種する
場所がずれないように
する。







介助者がいるときは、
ふとももの付け
根と膝をしっかりと
押さえる。

アナフィラキシーの初期対応

1		全身状態のチェック：顔色、意識状態、脈拍、呼吸などを確認する															
2		助けを呼ぶ：学校であれば、他の職員を呼ぶ・救急車に連絡するなど 医療機関であれば、蘇生チームなどを呼ぶ															
3		アドレナリン自己注射薬が処方されている場合は使用する (医療機関であれば、アドレナリンを筋肉注射する)															
4		仰向けにして足を挙上する体位にする															
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>医療機関での対応</th> <th>医療機関ではない場合の対応</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5 酸素</td> <td></td> <td>(呼吸状態が悪い場合) 酸素投与を行う</td> </tr> <tr> <td>6 生理的食塩水</td> <td></td> <td>(血圧低下などの症状がある場合) 点滴ルートの確保 生理的食塩水の急速静注</td> </tr> <tr> <td>7 心肺蘇生</td> <td></td> <td>呼吸停止や心停止をきたした場合は心肺蘇生を実施する</td> </tr> <tr> <td>8 チェック</td> <td></td> <td>定期的に脈拍、呼吸、血圧、酸素化(顔色)をチェックする</td> </tr> </tbody> </table>				医療機関での対応	医療機関ではない場合の対応	5 酸素		(呼吸状態が悪い場合) 酸素投与を行う	6 生理的食塩水		(血圧低下などの症状がある場合) 点滴ルートの確保 生理的食塩水の急速静注	7 心肺蘇生		呼吸停止や心停止をきたした場合は心肺蘇生を実施する	8 チェック		定期的に脈拍、呼吸、血圧、酸素化(顔色)をチェックする
	医療機関での対応	医療機関ではない場合の対応															
5 酸素		(呼吸状態が悪い場合) 酸素投与を行う															
6 生理的食塩水		(血圧低下などの症状がある場合) 点滴ルートの確保 生理的食塩水の急速静注															
7 心肺蘇生		呼吸停止や心停止をきたした場合は心肺蘇生を実施する															
8 チェック		定期的に脈拍、呼吸、血圧、酸素化(顔色)をチェックする															
5	酸素	(呼吸状態が悪い場合) 酸素投与を行う															
6	生理的食塩水	(血圧低下などの症状がある場合) 点滴ルートの確保 生理的食塩水の急速静注															
7	心肺蘇生	呼吸停止や心停止をきたした場合は心肺蘇生を実施する	呼吸停止や心停止をきたした場合は心肺蘇生を実施する														
8	チェック	定期的に脈拍、呼吸、血圧、酸素化(顔色)をチェックする	定期的に脈拍、呼吸、血圧、酸素化(顔色)をチェックする														

評価シートなどを活用しましょう

● 評価シートの一例：「重症」のイメージ

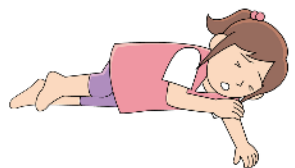
重症度	皮膚 	消化器 	呼吸器 	全身 
重症		<input type="checkbox"/> 持続する強い（がまんできない）腹痛 <input type="checkbox"/> 繰り返し吐き続ける	<input type="checkbox"/> のどや胸が締め付けられる <input type="checkbox"/> 声がかすれる <input type="checkbox"/> 犬が吠えるような咳 <input type="checkbox"/> 持続する強い咳き込み <input type="checkbox"/> ゼーゼーする呼吸 <input type="checkbox"/> 息がしにくい	<input type="checkbox"/> 唇や爪が青白い <input type="checkbox"/> 脈が触れにくい・不規則 <input type="checkbox"/> 意識がもうろうとしている <input type="checkbox"/> ぐったりしている <input type="checkbox"/> 尿や便を漏らす

1つでもあてはまる

※アドレナリン自己注射薬を使用
 ※119番で救急車
 ※安静を保つ

その場で救急隊を待ちましょう。
 可能なら処方されている内服薬も使用します。

安静に
保つ



吐いていた・吐き気がある



もうろう・ぐったり



息がしにくくて
あおむけに
なれない

アレルギーの症状の重症レベルを確認するには評価シートなどを用いると便利です。

食物アレルギーの症状が見られた場合には、評価シートなどを用いてすぐに症状をチェックできるように準備をしておきましょう。

評価シートは自治体や関係機関のWebサイトなどで公表されています。

例：環境再生保全機構 食物アレルギー緊急時対応マニュアル

https://www.erca.go.jp/yobou/pamphlet/form/00/archives_27015.html

日本アレルギー学会 アナフィラキシーガイドライン
 環境再生保全機構 ぜん息予防のためのよくわかる食物アレルギー対応ガイドブック 2014
 を参考に作成